

「愛する」を 肌で感じて

三朝中体験授業
赤ちゃん登校日



赤ちゃんを抱っこして触れ合う
中学生

三朝中学校（三朝町本泉、福嶋千寿子校長）で十七日、「三朝中学校赤ちゃん登校日」が行われた。三年生の生徒二十四人が、赤ちゃ

んとお母さんと触れ合い、命の大切さなどを身を持って感じていた。赤ちゃん登校日は、家庭科の授業の一環。

赤ちゃんに触れ、愛する気持ちや命の重みを感じてもらおう。さらに赤ちゃんの保護者と触れ合うことで、大事にする姿を目にし、将来への自覚を促すことも狙っている。

同町健康福祉課が中学校で六カ月検診を行ったのに併せ、待ち時間を利用して実施した。生徒らは、アドバイザーの小児科医の松田隆さんから、五カ月ぐらいの乳児の特徴やコミュニケーションの

取り方を学んでから、抱っこするなどして触れ合った。

大坂秀太郎君（一四）は「かわいいから宝物なんだろうと思った」と話し、同町鎌田の谷口由香利さん（三六）は「いろいろ質問してくれました。かわいいと言われたいですね」と笑顔。福嶋校長は「教科書やコンピュータにはない、本物と触れることは大切だと思います」と感想を話していた。